

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：33919

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05630・19K20836

研究課題名（和文）中国北朝墓誌の用語の選好性にみる文化的社会集団の研究

研究課題名（英文）A Study of Cultural Social Groups in Preference for Terms in the Epitaph of the Northern Dynasty of China

研究代表者

石原 聖子（大知聖子）（Ishihara, Seiko）

名城大学・理工学部・助教

研究者番号：80650647

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：中国・北朝期（4-6世紀）では、北魏第六代皇帝・孝文帝による洛陽遷都（5世紀末）の後に、墓誌という出土史料が増加する。従来の研究では墓誌の官歴や姻戚関係の分析が中心であった。しかし、本研究では銘辞という韻文形式の文学的修辞部分の中で用いられる語を分析することにより、文化や流行を生み出す社会集団を復元した。北魏墓誌の銘辞中の用語をテキストマイニングを使って分析し、1万語を超える単語の相関関係を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国・北朝期（4-6世紀）の歴史研究を行う際には正史など編纂史料がテキストとして最も充実しているが、近年、墓誌という出土史料の発見が相次ぎ、研究が活発化している。しかし、大半は編纂史料の情報を補助的に追加・訂正する利用方法、あるいは家系図の復元や整理に止まっている。本研究はその限界を乗り越え、政治的集団とは異なった文化的集団を明らかにしようとするものである。

研究成果の概要（英文）：In the period of Northern Dynasty of China (4 - 6 century), the unearthed historical materials called epitaph increased after the transfer of the capital to Luoyang (End of the 5th century) by the sixth emperor of the Northern Wei Dynasty, Emperor Xiaowen. Previous studies focused on the analysis of official histories in epitaphs and matrimonial relations. In this study, however, we analyzed the words used in the literary rhetoric part of the metrical form called meiji to restore the social groups that produced culture and fashion. I analyzed terms in the epitaph of Northern Wei using text mining and found correlations between more than 10,000 words.

研究分野：中国魏晋南北朝史

キーワード：北魏 石刻史料 テキストマイニング 墓誌 北朝

1. 研究開始当初の背景

中国・北朝期(4~6世紀)は、漢民族と非漢民族である胡族との間に政治的・文化的な衝突から、次第に融合(双方の選択的受容)へ移行し、新たな制度の萌芽が見られるようになる時期である。

当該時期の歴史研究を行う際には正史など編纂史料がテキストとして最も充実しているが、近年、墓誌という出土史料の発見が相次ぎ、研究が活発化している。しかし、大半は編纂史料の情報を補助的に追加・訂正する利用方法、あるいは家系図の復元や整理に止まっている。それは研究者の問題意識が国家や政治中心であり、社会集団の関係についてはほとんど階級関係のみによって説明されていることに起因すると考えられる。

本研究では以上の問題に着目した。

2. 研究の目的

本研究ではこれまでの中国北朝史研究において全くと言ってよいほど注意が払われてこなかった墓誌の銘辞部分を検討する。墓誌には被葬者の官歴・事績等が記されるが、実はこの項目は序文に該当し、銘辞という韻文形式の文学的修辭部分が主となっている。この銘辞の中で用いられる語を分析することにより、文化や流行を生み出す社会集団を復元することを目的とする。それによって従来の国家研究や政治史的アプローチに偏った北朝史研究とは異なり、階級関係とは異なる文化的な社会集団を浮かび上がらせる。

近年、墓誌を利用した研究が進んでいるが、主に官歴や出身の部分に重点が置かれ、正史の記事の補足や部分的修正にとどまっているという問題点がある。本研究はその限界を乗り越え、政治的集団とは異なった文化的集団を明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 北魏墓誌を収集し、データベース化と数量化を行う。先行研究において確認されている北朝墓誌は、梶山智史編『北朝隋代墓誌所在総合目録』(明治大学東アジア石刻文物研究所、2013年)によれば約1900点ある。これは2013年5月の時点での総数であり、その後も次々と墓誌の発掘が報告されているため、新しい墓誌のデータを収集する。

(2) データ分析として、形態素解析(Morphological Analysis)を行う。具体的には MeCab に報告者が作成した墓誌の銘辞部分の語彙データを追加したもので解析を行う。

(3) 銘辞部分の用語の出現頻度の傾向によるグループ分けをし、社会集団分析を行う。まず社会階層・民族・本貫地・姓族などによる傾向を確認し、「流行」を共有する集団を探る。そして上記の作業によって得られた数量データを元に埋葬時期・埋葬地・社会階層・民族・本貫地・姓族による傾向を検討する。これにより得られたデータを更に時系列に排列することで、はじめに差異化を図り「流行」の先端となる集団、およびそれを模倣し先端集団に新たな差異化の必要性を生じさせる集団を探る。この各集団間の文化的な影響関係を明らかにすることで、従来の研究では見えてこなかった文化的集団を浮かび上がらせる。

4. 研究成果

(1) 研究の基礎となる北魏墓誌の銘辞部分のデータベースの構築

期間中に海外および国内にて墓誌の実見調査を行い、墓誌の文字を移録し、撮影が可能な場所では写真撮影を行った。さらに『北朝隋代墓誌所在総合目録』に掲載された墓誌を収集するだけでなく、2013年5月以降に発行された北魏墓誌の図録を購入し、データ数の増加を行った。収集したデータを文字起こしし、ワードファイルおよびエクセルファイルを作成した。

(2) データ分析

古典中国語の形態素分析を高精度で行うことのできるツールは現時点ではまだ無い。そのためエクセルを用いて自分で辞書を作った。MeCab に自分が作成した辞書をコンパイルし、MeCab を KH Coder に入れ、テキストマイニングを行った。このように北魏墓誌の銘辞部分を分析した結果、語数として17447語を抽出することができた。そこで使われる頻出単語も抽出しグラフ化できた(図1)。

(3) 社会集団分析

抽出した語彙に基づき、共起ネットワーク図(図2)を作成し、相関関係を調べた。その結果、最高位の身分の者が差異化によって用いた語が、それよりやや身分の低い集団に模倣された結果、使われなくなり、その後、また流行する場合もあるというサイクルがあったことが浮かび上がってきた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 59
2. 論文標題 北魏孝文帝の官爵改革およびその後の変質について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名城大学理工学部研究報告	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 55-1
2. 論文標題 爵保有者の階層にみる両晋・北魏の爵制運用の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名城大学人文紀要	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 東洋文庫中国古代地域史研究グループ編（長谷川順二、兼平充明、山本尚貴、石黒ひさ子、角山典幸、板橋暁子、大知聖子、宇都宮美生、田熊敬之、堀井裕之、宮内勇弥、柏倉優一）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋文庫	5. 総ページ数 545
3. 書名 『水経注疏訳注（穀水篇）』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----